（1）　（明治25年３月28日第３種郵便物認可・昭和24年２月17日運輸省特別扱承認第16号）　THE JOMO SHIMBUN　平成元年（1989年）３月18日（土曜日）　第33800号　（日刊）

「連合群馬」が旗揚げ

会長に天笠氏選出
316組合、8万5000人結集

天笠　勝美氏

丸岡　昭夫氏

会員数五十万人を目指す連合群馬（通称・連合）の地方組織、連合群馬の結成大会が十七日、前橋・県民会館で開かれ、三十三県目、北海道を除く東日本では六番目の地方組織として発足した。連合の地方組織としては全国で四十二番目の結成で、県内の組織労働者の約半数が加盟する最大の労働団体の誕生となった。初代会長には、自動車総連群馬地方協議会議長（富士重工労組委員長）の天笠勝美氏（47）が全会一致で選出された。副会長、顧問、中立労連、新産別の労働四団体の代表六人が副会長に就任していくことになった。今後は、今秋の官公労統一をいかにスムーズに達成するかが最大の課題となり、労働界最大組織の動向は、夏の参議院や衆院選などの政治情勢にも大きな影響を与えていくとみられる。

求められる指導力

（解説）加入組合員数八万五千人の連合群馬一が誕生した。地評系、同盟系それぞれの組織をはらみながらの結成だけに、体制が真の労働運動のカジ取り役として再編していくのか、労組間の連帯感をどこまで高めていくのか、関心を持つ声は少なくない。

労働戦線の統一に向けた動きが本格化しており、連合群馬の結成はこの動きを一段と加速させるものとみられる。

しかし、連合群馬の体制は決して強い指導力があるとはいえない。

とりわけ、夏の参院選をめぐる労働戦線の動きは、連合群馬にとっても大きな試金石となる。

天笠氏は就任あいさつで「基本的には連合方式を決定することを強調しながらも「自分たちのためだけにある政党ではない」との考えを示している。

昨年の衆議院選挙では、連合の支援する候補者が全員当選したが、参院選では、連合の支援する候補者が全員当選したが、参院選では、連合の支援する候補者が全員当選したが、参院選